

大学教育における社会連携のデザインシステムの構築

CONSTRUCTION OF DESIGN SYSTEM OF SOCIAL COOPERATION

かわい ひろゆき デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授
荒木 優子 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 准教授
瀬能 徹 デザイン学部ファッションデザイン学科 准教授

Hiroyuki KAWAI Department of Visual Design, School of Design, Professor
Yuko ARAKI Department of Visual Design, School of Design, Associate Professor
Toru SENOU Department of Fashion Design, School of Design, Associate Professor

要旨

本研究は、本学がこれまで取り組んできたさまざまな社会連携事業を踏まえ、アートとデザインの分野において社会貢献できる、新しい社会連携の形を模索することが目的である。

そのために、まず、本学が持つクリエイティブ力を積極的に情報発信するためのツールの制作とその活用法を考案した。

具体的なツールとしてポストカードが検討され、学内の教員や学生たちの作品 50 点を公募により集め、ポストカード・ブックにまとめることとした。

また、それを地域のショップなどに無料配布した。配布場所の選定は作品採用者の裁量に任せることとし、採用の条件として、一人 3 カ所に配布することを義務づけた。

さらに、配布期間を春休みとすることで、帰省先も含めたできるだけ広範囲への配布を狙った。

結果的には応募者総数 68 名、作品点数 143 点のなかから 52 名の 52 作品が選ばれポストカード・ブックとなった。

本研究は、学内教員と学生からの 52 作品によるポストカード・ブックの制作とその配布という、非常に実験的で具体的な試みであったが、初回としてはまずまずの成果をあげることができたと考えられる。

Summary

In the present study, groping for the shape of new social cooperation is a purpose that the contribution to society can be done in the field of the art and the design based on case for various societies on which this learning has worked up to now.

Creative power of this learning was first designed and production and the use method of the tool to send information positively were designed for that.

The postcard was examined as a concrete tool, and it was assumed that the work 50 points (the teacher and students in school) were collected by the public advertisement, and it summarized it in the postcard book.

52 works of 52 people were consequentially chosen from the average of 68 people of the total of the applicant and 143 points of the number of works and it became a postcard book.

It is thought that a so-so result was able to be achieved first time though the present study was a very experimental, concrete attempt (the production of the postcard book by 52 works from the school teacher and the student and the distributions).

1) 目的

本研究は、本学がこれまで取り組んできたさまざまな社会連携事案を踏まえ、アートとデザインの分野における本学独自の社会連携のあり方を探求し、積極的に社会に貢献するための連携のシステム化を模索することが目的である。

2) 検討事項

まず私たちは、京都芸術デザイン専門学校の「産学協同教育プロジェクト」の内容分析を試みた。

京都芸術デザイン専門学校は、学内に「デザインオフィス・CDC (Creative Design College)」(以下 CDC と略す) を設立し、企業との社会連携を集約している。

CDC の特徴は、産学協同教育プロジェクトとして「インターンシップ」と「受託研究制作」のふたつの連携により、即戦力となる人材を企業と一体となって育成するところにある。この「インターンシップ」と「受託研究制作」は、学校と企業がギブ・アンド・テイクの関係になっていることが容易に推測される。

また CDC は、グループ校である京都造形芸術大学を「CDC Background」、交流校で東京にある阿佐ヶ谷美術専門学校を「CDC Communications」と位置づけ、専門学校としての技術的な専門性に加え、大学の学術的深度と首都圏のマーケティング情報力を兼ね備えていることを強くアピールしている。実際にどの程度スムーズに3校の連携が行われているかは定かでないが、特に研究開発部門を持たない企業のシンクタンク的な役割も果たすと宣言しているのが印象深い。

こうして、大学側のメリットと企業側のメリットをうまく合致させた京都芸術デザイン専門学校の「産学協同教育プロジェクト」は、ひとつの社会連携システムとして有効な形であると考えられる。

「産学協同教育プロジェクト」の情報はネットで広く発信されているほか、企業向けの営業ツールとして A4 サイズ 8 ページのパンフレットにまとめられており、概要を知ることができる。

3) 本学の現状とシステム化の第一歩

本学の社会連携は、高度な内容を各教員が独自に受託しているケースに加え、2008年4月に神戸市との間でデザイン包括協定が締結されて以降、行政からの官学連携の依頼が増え、受託研究の件数全体が増加傾向にある。

各案件は芸術工学研究所の研究報告集にまとめられており概観することができるが、外部の一般企業に対しての情報発信としては若干インタレストにかけられると思われる。

いっぽう、2006年4月に先端芸術学部が設置され、それまでのデザイン系の学生に加え、アートを志す学生の受け入れが始まった。2009年は、新学部の学生が1年から4年までそろそろ初めての年度である。

そうした状況において、社会連携を大学から積極的にアプローチしていく第一段階として、まず、本学の「デザイン力」「アート力」を魅力的に情報発信していくためのツールを構想してみることにした。それは大学からの一方的なものではなく、企業にとっても興味深いものでなければならぬ。

また、今回のプロジェクトは、今まで各教員が持っている独自の連携ネットワークに対して、それ以外のところに広くアピールし認知度を上げることを第一の目標とした。

具体的なツールとしてカレンダーとポストカードが検討されたが、より利便性の高い媒体であるポストカードを制作することに決定した。

4) システムの検討

収録する作品点数は50点とした。ポストカード1枚に1作品で、合計50枚のポストカードをケースに入れる仕様とした。

作品の募集期間は、11月5日(木)から14日(土)まで、8日(日)を除く9日間とした。提出場所や提出方法などが検討され、応募要項(写真1)を制作し、学内に配布した。

次に、制作したツールの活用法を検討した。広くアピールすることは広く配布することであり、そのための工夫が必要であった。

配布に関しては、作品採用者に協力してもらうこととし、採用者には50枚すべてをまとめたポストカード・ブック（写真2）2冊と、本人の作品のポストカード100枚を贈呈する代わりに、3カ所に3冊ずつ配布することを義務づけた。

5) まとめ

本研究のポイントは、社会連携を目的とした大学発の情報発信ツールの制作とその配布システムの開発にある。

本学の「デザイン力」「アート力」を結集したポストカード・ブックの制作は、最終的に52名の52作品（写真3～54）がポストカードとなり、満足のいくレベルでの仕上がりととなった。

配布システムについては、採用者がひとり3カ所に配布というアイデアはよかったが、その後の実施段階での管理が行き届かなかったため徹底されなかった。

また、作品募集の学内告知が周知徹底されなかったために、応募者数の学科間差が顕著に現れてしまった。こうしたプロジェクトは回を重ねていくたびに認知も高まり、学生の自主制作など、制作意欲の向上につながり、結果的に大学の「デザイン力」「作品力」を強化し社会連携力を高めるベースづくりにつながるものと思われる。

応募資格に本学OBも含めていたが、告知不足のために、結果的にOBの参加がなかったのも残念である。

学科を越えて全学的な公募を我々3教員で行うには限界があり、ネットでの情報発信やポストカードを置いていただいた協力店のその後までを追跡調査できなかった。可能であれば、協力していただいたところとのパイプは今後も強化していくことが望ましいと考える。

とはいっても、本プロジェクトは非常に実験的で具体的な試みであり、初回としてはまずまずの成果を上げることができたと考えている。

社会連携としては、じつはこの先、今回制作したツールがさまざまに活用され連携に至るまでが重要だが、このことについても中期的な視点での継続が必要と思われる。

今後の展開が期待されるところである。



写真1) 応募要項



写真2) ポストカード・ブック

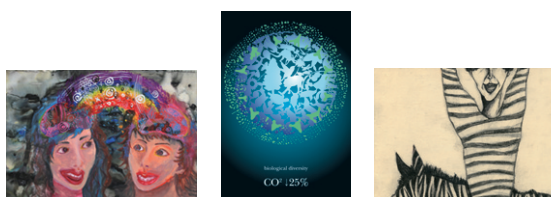


写真3) 安部佑奈 写真4) 荒木優子 写真5) 池之上真由

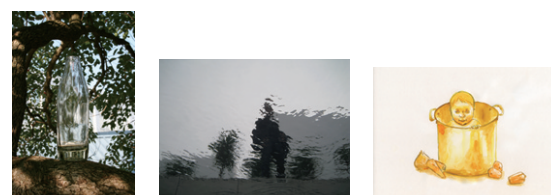


写真6) 逸身健二郎 写真7) 井上貴博 写真8) 内田愛

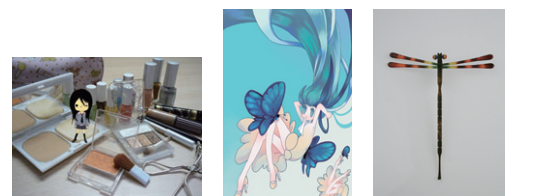


写真9) 大路加奈子 写真10) 大田亜梨沙 写真11) 大田尚作

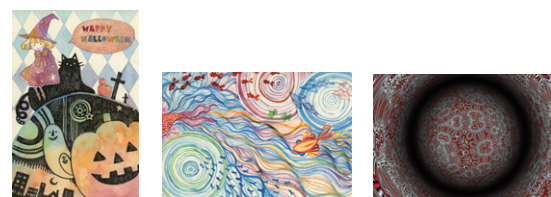


写真12) 岡田愛子 写真13) 小川あかり 写真14) 金子照之



写真 15) かわいひろゆき 写真 16) 木下香織 写真 17) 木下愛真

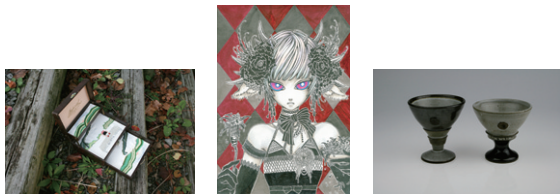


写真 18) 久富里絵 写真 19) 近藤智香 写真 20) 佐々木宏幸

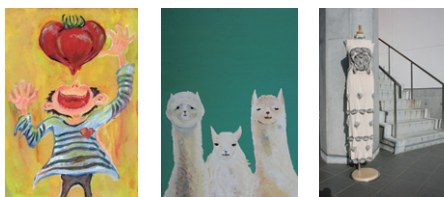


写真 21) 佐古井里奈 写真 22) 下川郁 写真 23) 須浪智行

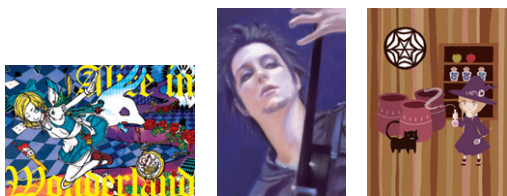


写真 24) 高原主家 写真 25) 多田由美 写真 26) 田中千晶



写真 27) 張健 写真 28) 鶴谷歩 写真 29) 唐賽

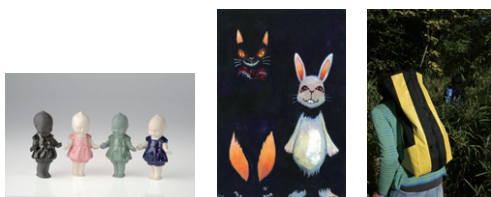


写真 30) 戸矢崎満男 写真 31) 中島亜希子 写真 32) 中田昌孝

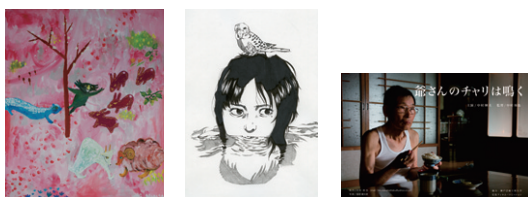


写真 33) 永田亜希 写真 34) 中谷祐太 写真 35) 中村琢也

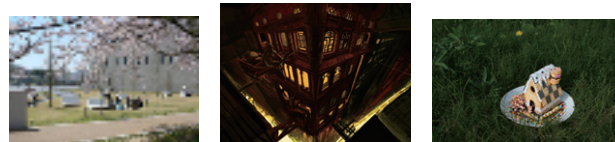


写真 36) 長濱伸貴 写真 37) 西尾知 写真 38) 西田梨沙

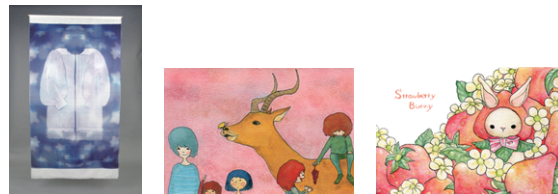


写真 39) 白本恵美 写真 40) 埴淵咲紀 写真 41) 林彩佳

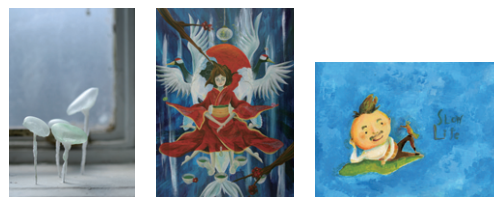


写真 42) ばんばまさえ 写真 43) 廣田綾菜 写真 44) 福永愛実



写真 45) 藤田美佳 写真 46) 藤森太樹 写真 47) 水田萌子



写真 48) みつくすさいだー 写真 49) 望月裕圭里 写真 50) 山添菜央

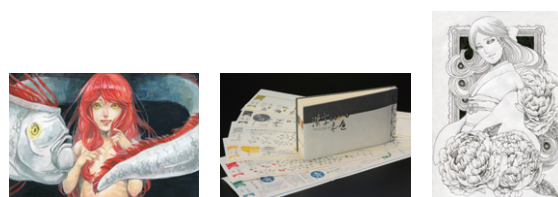


写真 51) 山本なぎさ 写真 52) 林雪雰 写真 53) 和佳香保里



写真 54) 満芋何

※ 写真 3)~写真 54)は、52 作品とそれぞれ採用者名（敬称、所属学科略）。